

第5章 地域特性を活かした「鯖江型」の取り組み

第4章で設定した「具体的施策」はそれぞれ関連性があり、鯖江市の地域特性を活かして、総合的、一体的に推進することでより大きな効果を発揮します。

具体的施策の中から、今後更に伸ばしていくべき長所に関する事項を「鯖江型」の特徴的な取り組みとして位置づけ、「鯖江型の生涯スポーツ社会の実現」に向けて計画的に推進していきます。

5-1 スポーツ施設、総合型地域スポーツクラブなど、充実したスポーツ環境の有効活用

(1) 鯖江市の地域特性と今後の方向性

鯖江市には、総合体育館やスポーツ交流館などの公共スポーツ施設や公民館併設体育館などの屋内施設をはじめとして、グラウンドや陸上競技場などの屋外競技用の施設も数多くあり、平成21年度には、一層の施設活用を図るため、丸山公園多目的広場の芝生化整備を行っています。これに加え、小・中学校の体育館では開放学校が行われており、開放学校を含めるとスポーツのできる施設は市内全域にいきわたっており、スポーツ環境は大変充実しています。

今後は、これら施設の効率的活用、利便性の向上を図り、市民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるように、恵まれた施設の有効活用を目指します。

また、総合型地域スポーツクラブについては、鯖江市は中学校区単位で設立されており、これまでに確立された体制・組織を築き上げてきましたが、今後子どもから大人まで幅広い世代の技能や興味に応じて、更なる活動内容の充実を図り、加入者増などの底辺拡大が図れるよう支援していきます。

さらに、総合型地域スポーツクラブの自立した活動が、これまでの行政主導によるスポーツ振興策にはない施策を展開していき、地域住民の要望にも対応できるなど、「新しい公共」として形成されるよう支援していきます。

(2) 特徴的な取り組み

- ・ 開放学校、公民館併設体育館の各種スポーツ団体への開放など、共同利用の促進
- ・ 開放学校、公民館併設体育館における登録団体や利用手続きの見直し
- ・ 未利用時間帯における施設の有効活用
- ・ 性別や各年齢層のニーズに応じたスポーツ教室などの活動プログラムの見直し・充実
- ・ 「新しい公共」を担うコミュニティ拠点としての総合型地域スポーツクラブの充実・発展
(財政面での支援、NPO法人など法人格取得への支援 など)

5-2 全国トップレベルの子どもの体力の維持・向上

(1) 鯖江市の地域特性と今後の方向性

平成 22 年度に実施された「小学校新体力テスト調査」によると、福井県は全国でもトップレベルにあり、中でも鯖江市は県内トップレベルの体力を維持しています。しかし、全国的な傾向となっているスポーツをする子、しない子の体力格差、いわゆる「二極化」が進んでおり、鯖江市においても、年齢が高くなるほど個人差が広がる傾向がみられます。

このため、学校教育での体育活動はもとより、家庭、地域、学校が連携し、遊びやスポーツに親しむことのできるスポーツ環境づくりを積極的に進めます。

更に、より多くの子どもがスポーツ活動に参加し、体力を向上できるよう、子どもの体力づくりに対する市民のスポーツ意識の向上の啓発を進めます。

《小学生》

	男子			女子		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年
上体起こし	◎	◎	△	◎	◎	◎
長座体前屈	◎	◎	◎	△	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50m走	△	◎	◎	◎	◎	◎
立ち幅跳び	△	◎	△	△	◎	◎
ソフトボール投げ	▲	△	▲	▲	△	△
20mシャトルラン	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	◎	◎	△	◎	△	○

◎：市の平均が全国平均、県平均より優れている

○：市の平均が県平均より優れている

△：市の平均が県平均より劣っている

▲：市の平均が全国平均、県平均より劣っている

《中学生》

	男子			女子		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
上体起こし	◎	◎	◎	◎	◎	◎
長座体前屈	◎	◎	◎	◎	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50m走	◎	◎	◎	◎	◎	◎
立ち幅跳び	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソフトボール投げ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	▲	▲	◎	◎	◎	◎

◎：市の平均が全国平均、県平均より優れている

▲：市の平均が全国平均、県平均より劣っている

■ 小中学生の運動能力の全国平均、県平均との比較

(出典：新体力テスト(全国平均は平成 21 年度、県と市平均は平成 22 年度))

(2) 特徴的な取り組み

- ・学校と総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団など各種スポーツ団体との連携(学校と地域で活動できる指導者の養成・確保など)
- ・スポーツ少年団の活動内容の充実、各競技団体間の連携強化
- ・総合型地域スポーツクラブの小中学生向けプログラムの見直し・充実
- ・放課後児童クラブにおける運動やスポーツに親しむ機会の提供

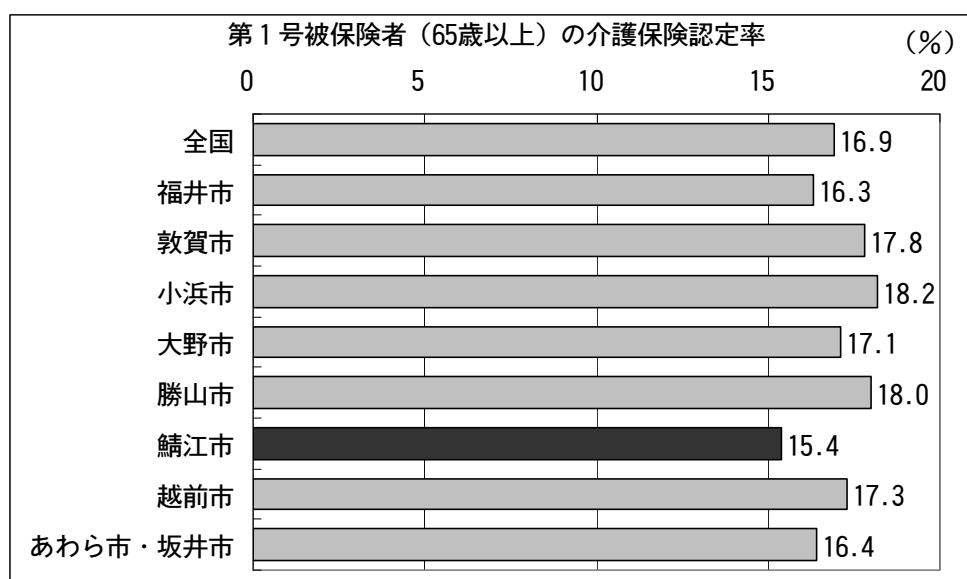
5-3 健康・長寿を目指した生涯スポーツの推進・展開

(1) 鯖江市の地域特性と今後の方向性

福井県は健康寿命（日常的に介護を必要としない自立した生活ができる生存期間）が全国でトップクラスですが、中でも鯖江市は高齢者全体に対する要介護認定を受けている割合が県内9市で最も低く（H23：介護保険事業状況報告）、元気な高齢者が多いといえます。

しかしながら、鯖江市の人口は平成22年をピークに減少に転じ、少子高齢化の進行により、平成47年には、老年人口の割合が30%を超えることが予測されています。

今後とも、高齢者のみならず、性別、年齢、障がいの有無などに関わらず、全ての市民がその自発性のもと、各々の興味・関心、適性などに応じて、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を整備し、「健康と長寿の推進」に取り組みます。



※あわら市・坂井市は坂井地区介護保険広域連合の数値を使用

（出典：厚生労働省「介護保険事業状況報告」平成23年4月分）

(2) 特徴的な取り組み

- ・鯖江市民スポーツふれあい事業の拡大・充実
- ・鯖江市民体育大会の見直し・充実
- ・鯖江市生涯学習スポーツ人材バンクの普及・活用
- ・障がいのある人も参加しやすいメニューへの見直し（スポーツ大会やイベント など）

5-4 体操・駅伝の振興で育むスポーツのまちづくり

(1) 鯖江市の地域特性と今後の方向性

鯖江市は二度にわたる世界大会など「体操のまち鯖江」として知られており、近年は小中学校、および高校を中心として駅伝大会でも好成績を収め、全国大会にも出場しています。

今後とも、体操・駅伝の振興を通じたまちづくりを進めるため、「体操のまち」「駅伝のまち」として全国に向けたPRを強化するとともに、鯖江市を代表するスポーツとして、市民意識の高揚とスポーツのイメージアップを図り、市民一人ひとりが誇りをもって支援していく体制を構築します。また、より一層の競技力向上のための支援を進めます。

《鯖江市で開催された主要な大会》

○体操競技

平成7年10月	1995年世界体操競技選手権大会鯖江大会
平成10年5月	1998年体操競技ワールドカップ決勝鯖江大会
平成11年8月	第30回全国中学校体操競技選手権大会
平成17年7月	第44回NHK杯体操競技鯖江大会
平成19年8月	第28回北信越国民体育大会体操・新体操競技会
平成20年9月	第41回全日本社会人体操競技選手権大会
平成21年8月	第42回全日本社会人体操競技選手権大会
平成22年7月	2010西日本ジュニア体操競技選手権大会
平成23年6月	平成23年度北信越高等学校体育大会（体操競技・新体操）選手権大会
平成23年9月	平成23年度北信越ジュニア体操（体操競技・新体操）選手権大会

○駅伝競走

平成17年4月	第18回都道府県対抗全日本マスターズ駅伝福井大会
平成18年11月	平成18年度北信越高等学校駅伝競走大会
平成23年11月	平成23年度北信越高等学校駅伝競走大会

※上記のほか、平成15年度より、小学生、中学生、高校、都市対抗の各部門全てを福井県駅伝大会として、毎年、鯖江市東公園陸上競技場にて開催

(2) 特徴的な取り組み

- ・体操、駅伝などの市内小中学校、高校の競技力向上への支援
- ・市民一人ひとりが参加できる支援体制の構築
- ・各種メディアを通じた「体操のまち」、「駅伝のまち」としての全国的なPRの強化
- ・鯖江市を代表するスポーツとしての市民への周知徹底、自発的な支援活動の促進